

観音寺城という名称は、城跡の中心付近にある観音正寺(中世には観音寺)に由来します。南北朝時代(14世紀)の『太平記』に「観音寺ノ城郭」と記されたのが初見です。山頂から南斜面にかけての山腹全体に郭が広がっていますが、これらの多くは観音正寺の遺構ではないかと考えられ、城郭の遺構との区別が今後の課題です。



伝平井丸の入口部分

城の中核部分は、観音正寺境内の西側にある、伝本丸、伝平井丸、伝池田丸のあたりと考えられます。これらの郭は面積が大きく、大石を使った壮大な石塁が郭を囲んでいます。天文13年(1544)に城を訪れた連歌師谷宗牧は、二階の座敷に案内され、茶室には茶器の名品が用意されていたと書いています。観音寺城が要塞であるとともに、佐々木六角氏の風雅な生活の場所であったことがうかがえます。昭和45年(1970)の発掘調査でも、茶器や中国産の陶磁器などが豊富に出土しています。

永禄11年(1568)に織田信長が観音寺城を攻撃すると、城主であった六角承禎・義治親子は逃亡し、あつけなく開城しました。天正7年(1579)に織田信長が安土城を完成させたことによって、観音寺城は城としての役割を終えたようです。



観音寺城跡出土遺物(安土城考古博物館蔵)



発行：滋賀県ミュージアム活性化推進委員会

編集：滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦6678

Tel.0748-46-2424 Fax.0748-46-6140

e-mail: gakupei@azuchi-museum.or.jp

URL: <http://www.azuchi-museum.or.jp/>



平成29年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2017

史跡観音寺城跡

Kannonji Castle Ruins, A Historic Site

近江源氏佐々木六角氏の居城

The Main Castle of the Rokkaku Family
of the Sasaki (Omi Genji) Clan



空から見た観音寺城跡

観音寺城は、標高432mの織山に築かれた城郭です。城主であった佐々木六角氏は、鎌倉時代から戦国時代(12世紀末~16世紀)まで近江国の守護を務めており、戦国時代に居城としたのが観音寺城です。中世の山城としては傑出した規模を持っており、安土城よりも早い段階で石垣を多用した城郭として有名ですが、石垣を多用した姿に整備されたのは、1530~50年代のことと考えられています。

滋賀県ミュージアム活性化推進委員会

滋賀県立安土城考古博物館



史跡観音寺城跡縄張図

— 散策路

『埋蔵文化財活用ブックレット11(近江の城郭6) 観音寺城跡』[平成23年. 滋賀県教育委員会]を改変